

2026 年度 第 7 回マッチングワークショップ（MWS）実施報告

本年度第 7 回目の MWS を 9 月 19 日（土）午後 13 時から開催しました。台風が接近し、天候が不安定な中、当日の直前キャンセルは 4 名となり、21 名の参加となりました。神奈川県内からの参加者が大多数を占めるなか、三重県からも参加者してくれました。

参加者はビブスを着用し、名札シールに呼んでもらいたいニックネームを書いて、自身のからだの、グループのメンバーから見やすい場所に貼ってもらいました。今回は 4 名グループが 3 つ、3 名グループが 3 つの合計 6 グループで、1 教室で実施しました。

各テーブルでは、空席が目立つ時間帯は表情が硬く、何を話してよいのかとお互いに遠慮しながら、相手の出方を牽制しているような空気が教室内に漂っていました。徐々に参加者が集まり出すと、雰囲気はどんどんと和らぎ、各テーブルで会話が弾むようになり、開始直前にはアイスブレイク（緊張をほぐすためのゲーム）をするまでもないという空気が出来上がっていました。また、MWS に参加することを唯一の目的で来ている、という意識の高さを肌で感じることも出来ました。

【オープニング】

初めに進行担当（ファシリテーター）から、本プログラムは入学試験ではなく、湘南工科大学での学びの基本スタイルであるアクティブラーニングとの相性を確認する場である、という MWS のコンセプトについて説明を行い、その後約 10 分間のアイスブレイクを実施しました。開始前から参加者同士の会話は弾んでいましたが、このアイスブレイクを通じてさらに表情が明るくなり、空気が和らいでいきました。この段階でグループワークに入っていくための空気が完璧に出来上がり、本題のグループワークでの活発な議論が楽しみな状況になりました。

【前半グループワーク】

今回のテーマは、食品安全保障の問題に関するものでした。参加者は事前に準備してきた内容をグループ内でひとり 2 分間ずつの発表を行い、その後のディスカッションでは、和やかな雰囲気の中、非常に活発な意見交換が行われました。

特に指示したわけではないのですが、発表の際には資料が貼られているホワイトボードの前に立って説明する参加者が多く見られました。発表の際は、聞き手の様子を注意深く観察しながら説明する様子も見られ、人前で発表することに慣れている、という印象を受けました。また参加者それぞれが十分な準備をして臨んでいる様子も窺えました。今回のテーマが食品という身近なものだったため、参加者は直接的な体験、経験も含めた内容の発表ができてだけでなく、今後の課題などもより具体的に考えることができ、踏み込んだ内容で話し合いをするグループもありました。

【後半グループワーク】

休憩後は、ビブスの番号をもとにグループを再編成し、前半のグループワークでまとめた内容を新しいグループでひとり 2 分間ずつ発表しました。新しいグループでの活動ではありましたが、教室内の空気はすでに出来上がっていたため、緊張する様子もなく前半グループの代表として、自分たちの考えをわかりやすく伝えようと努めていました。また、各発表の後には 2 分間の質疑応答の時間が設けられ、発表内容を掘り下げる質問が出るなど、活発な意見交換が行われました。

【クロージング】

振り返りシートの記入後、アンケートに答えてもらいました。さまざまな学校から集まった同世代との議論を通じて、本学が重視するアクティブラーニングの特徴や学びのスタイルを体感し、その相性を確認してもらえたようです。前半・後半のグループワークを通じて参加者同士の交流も深まり、開始時には緊張した様子も見られましたが、終る頃には非常に和やかな雰囲気になっていました。今回の参加者も非常に熱心に取り組んでくれていた印象を強く持ちました。このような学生さんたちが本学に入学して大学全体を活性化してくれたらと思います。

次回の MWS は、10 月 17 日（土）に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

湘南工科大学 総合文化教育センター
榎 淳一